

## 東日本大震災から201日 被災地の現状はどうなっているのか！

3月11日の東日本大震災からおよそ半年が過ぎました。東日本運転協議会は、9月28日に被災の状況と組合員の激励を兼ねて、被災された岩手県大船渡線沿線の駅を中心に訪れました。当日は、東日本運転協議会木立議長と東京から車掌区のNさんとともに盛岡運転協議会佐藤議長に車で案内していただくことにして、午前8時に北上駅で待ち合わせまし行動しました。



車中にて被災当日の状況や復興の状態などを聞きながら、国労組合員がいる気仙沼駅に向かいました。組合員から温かく出迎えていただき、「やっと復興の一步が出たという感じです。まだまだ瓦礫の山で散乱しています」との言葉に、復興の兆しを感じましたが、これからも多くの支援が必要だと思いました。

気仙沼駅から3kmほど海岸の方に位置する南気仙沼駅に向かいました。駅舎は跡形も無く、ホームの跡と錆びついたレールが残されているだけでした。そばには切断されたレールが山積みされていて、重機が音を立てて動き回り、こ

こに近づくことを拒否しているかのようでした。

次に向かったのは、津波で亡くなられた国労組合員の熊谷秀三さんが勤務していた陸前高田駅です。海拔ゼロメートル地帯が幅広く続く地形のために、建物は殆んど津波で流されてしまい、ようやく見つけた陸前高田駅の跡地でお線香を手向けてきました。



次に、今回訪れた中では町として一番大きい大船渡駅です。この町は、鉄筋コンクリートの建物が多く、どうにか周辺の建物が形だけ残っていた為駅にたどり着くことができましたが、地盤沈下によりあちらこちらに海水による水溜りができて、まだまだもとに戻るには困難があると感じました。



この様子を見て、以前のにぎわっていた商店街に戻るのかなどの不安もよぎります。

いずれの被災地も人影はまばらで、いるのは工事関係者ばかりでした。

そして最後に直接の被害を免れた盛駅にお邪魔しました。ここは、大船渡線から三陸鉄道への乗換駅ですが現在はどちらも列車は走っておらず、駅員が日勤で配置されていました。最近バス代行が走るようになり、JRの切符を買い求める人が訪れたりしているという状況だそうです。

バス代行の前は、地域住民の足といえば、自家用車かタクシーということでしたから大変だったと思いますし、改めて公共交通として地域・住民の足である鉄道の必要性を再認識したし、一日も早い復旧が待たれていること、私たち公共交通を守る運動前進の重要性も感じました。

さらに、この駅は第三セクター三陸鉄道の出発駅です。構内には気動車が4両留置していましたが、海水をかぶり使用不能になりました。庫に留置していたディーゼル機関車は難を免れていたため、近くセメント輸送の再開に向けて、試運転を行っている最中だそうです。明るい材料に少しうれしくなりました。



今回訪れた大船渡線沿線はJRとして復計画がまだ立っていない線区です。町のいたるところ、道路わきには瓦礫の中間集積場として瓦礫が山積みになっています。最終的な処理設置や線路を山側へ移転する計画なども問題が山積みといわれています。一刻も早い復旧・復興と、この地にレールが敷設されて公共交通としての鉄道が運行される日を願って帰路に着きました。

10月2日～3日に開催した第10回全国交流会の中で一部報告しましたが、今回の震災に対して参加者、共済、近畿運転協議会などからたくさんの暖かい励ましをいただきました。

直ちに被災された盛岡、仙台、水戸の3地本へ送った事を報告いたしますことと同時に、紙面を通じてカンパをいただきました皆さんにお礼を申し上げます。

そして何よりも一日も早い復旧と元の生活を取り戻すため、困難を乗り越え、みんなで力を合わせていくことを呼びかけます。

もうひとつの大きな問題として震災復興の妨げになっているものに、東京電力福島第一原発事故があります。放射能汚染により常磐線の四ツ倉～亘理間は復旧の目途はなく、今も多くの地域が放射能汚染の恐怖に晒されています。私たちは、再生可能なエネルギー社会確立の早期実現を目指して、反核・脱原発を訴え、統一した運動を作るために頑張りましょう！



### 旅客3事業者10路線で運転休止中(9月12日現在)

JR 東日本	八戸線	種市～久慈
	山田線	宮古～釜石
	大船渡線	気仙沼～盛
	気仙沼線	柳津～気仙沼
	石巻線	石巻～女川
	仙石線	高城町～矢本
	常磐線	九ノ浜～亘理
三陸鉄道	北リアス線・南リアス線	小本～陸中野田
その他	仙台空港鉄道	美園田～仙台空港
	岩手開発鉄道	
	仙台臨海鉄道	
	福島臨海鉄道本線	宮下～小名浜